

TOYO UNIVERSITY LIBRARY INFORMATION BULLETIN

# ΚΟΣΜΟΣ

特集 最近読んだコノ1冊!



加藤千亜紀さん画 (短大日本文学科2年)

# 『遠き落日』

H・I

## 伝

記はウソつきだ。誰も人生のうち  
 であんな輝ける出来事があるはず  
 ではないし、世界を揺り動かすような努力  
 も才能もない。なぜ伝記の中の人物は超人  
 的な振る舞いが出来るんだろう。僕は人間  
 だ。痛みも苦しみも怠惰もすべて持ち合  
 わせている。だけど待てよ、人間らしく生  
 きてこそ素晴らしいとジョン・レノンも歌っ  
 ている。

美化されすぎている伝記群の中で最も目  
 立った人物は野口英世だろう。彼は確かに  
 偉大なる細菌学者である。左手をやけどし  
 て手ん棒と馬鹿にされながらも医者になっ  
 たのは周知の事実だ。しかし、多くの伝記  
 をながめると、野口がどれだけ努力して栄

光を勝ち取ったかばかりで埋められていて  
 その裏側にある苦悩や憂鬱に関してはほと  
 んど述べられていない。読者にスパーマ  
 ン野口英世を印象づけさせるゆえんだ。  
 作者は「虚飾のない生まの野口英世その  
 ものを描きたいと思って筆を」執り、十分  
 に従来の伝記に対抗する野口英世伝を書き  
 下ろした。そこには、僕らの想像もできな  
 かった「人間野口英世」がいた。

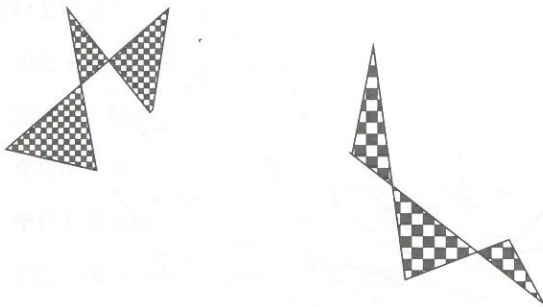
意中の女性にせつせとラブレターを書き  
 まくり、恩師や友人に数え切れないほど借  
 金をしては踏み倒し、吉原通いで放蕩する  
 など、生身の男としての野口英世の行動は  
 人生のユーモアとして受け取れるし、また  
 それが僕らに親近感を与えてくれる。

「なにが、なんだか、わからない……。」  
 という野口の最期の言葉は、度重なる人生  
 のユーモアの終結にふさわしい。手を伸ば

人間、  
 野口英世が…

し続けて掴んだものと掴み損ねたものが混  
 ざり合って彼の一生の中で昇華して、それ  
 を目にした時の魂の叫びだったのだろう。  
 この本は、僕らが軽々しく偉人と呼ぶには  
 あまりに失礼な、静と動の軌跡を生々しく  
 描き上げている。

(文学部2年・H・I)



# 『私は女性にしか期待しない』

宇恵 次郎

日本の歴史の中で、現代ほど女性が注目され、活躍している時代はなかったであろう。ひと昔前なら、男性社会と言われていた分野にも、女性が次々と進出し男性しかいない世界は数えるほどになった。

そうした女性達の活躍が目覚ましいものの例として、この夏行われたバルセロナオリンピックを挙げることができるであろう。日本に一つ目の金メダルをもたらした水泳の岩崎恭子選手を始めとして、数多くの女性選手が沢山の感動を与えてくれたことは、記憶に新しいことだ。

一方、企業においても、女性が活躍する場が広がった。男女雇用機会均等法、

育児休業制度なども手伝って、女性が一般職（いわゆるお茶くみやコピーとり）のみならず、総合職として、男性や家庭をあまり気にすることなしに、働ける環境になりつつある。そして、結婚・出産等で一旦は仕事を辞めた女性でも、経済的理由はもちろんであるが、著者が述べているように、昔ながらの風習であったイエ社会から脱出し、夫と子供のためにつくして一生を終えるといった人生から、今度は自分の生きがいを求め、能力を生かせる職場で再就職す

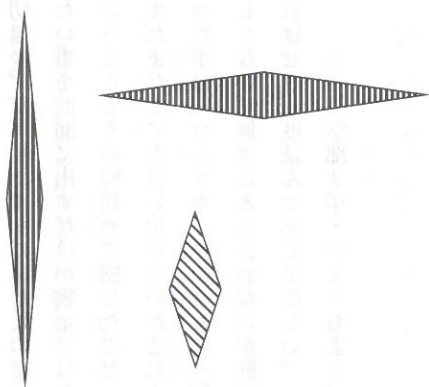
## 男性の意識の改革を……

るようになった。「男は仕事、女は家庭」という言葉はすでに死語となりつつあるのが現状の日本である。

このような時代となった今日、今度は男性が変わらなければならぬと思う。以前と同様に女性を一段低いものと考え、男尊女卑の意識のもと、今では化石にちか

きたりの上であぐらをかいているようでは、とてもではないが、本当の民主主義、男女平等の社会は生まれてこないであろう。これからは女性を自分達と同等のパートナーとして、政治上でも企業の中でも家庭においても接するといった、男性自身の意識改革が必要ではないかと思う。

（経営学部3年・うえじろう）



# 『ウルフガイ』

山口 雅信

た

またま出掛けたデパートで古本市をやっていた。何とはなしに並んだ本たちを眺めていると、あったのである。「ウルフガイ」が。正確に言えばこれは一冊の本ではない。平井和正氏の「狼の紋章」を始めとする一連の本達のシリーズタイトルとでも言うべきものだろう。次の瞬間には値段もろくに見ずにレジへと向かっていった。初めて読んだのは暫く前になる。そういった意味では最近読んだとは言えないが今改めて読んでもその面白さは少しも損なわれていなかった。少し古い本ではあるがこの本について語ってみたい。かつて高校の図書室で見付けたこの本達はそれまで私

が読んでいた本とは別の方向性（分野ではない）を持っていた。これは犬神明（以後彼と呼ぶ）という人狼（平たく言えば猿男である）が、「不死鳥計画」（分かり易く言えば「白人以外皆死んでしまえ計画」である）の為にその力を利用してするまるで国営のKKKみたいなCIAと戦う物語である。とこんな説明をするともまるでギャグみたいな話に聞こえるが実際はもっともつと重いテーマを持つ物語なのである。では

重いテーマ

……「悲哀」

何処がどう重いのか。言葉で表すのは難しいと思うがそのうちの一つは「悲哀」だと思う。彼は人狼だけあって強靱である。特に満月期には超人的な力を発揮する。その時にはとにかく強い。ひたすら強い。例えば悪いが映画「エイリアン」ばりの強さである。向かってくる敵を片っ端から片付けて行くのだが、その姿に言い様の無い悲し

さを感じる。実際にはそのような描写は一切無い。だが私は確かに感じたのだ。言いたい事を前面に出すだけが物語ではないということとその時初めて感じたのだった。まだまだとても言い足りないがこれまで述べた事は「ウルフガイ」のほんの一側面ではない。無理にとは言わないが興味があればぜひ一度読んで感じて欲しい。

（工学部2年・やまぐちまさのぶ）



# 『鈴の鳴る道』

元谷 恭子

## いのち

いのちが一番大切だと思っていたころ  
生きるのが苦しかった  
いのちより大切なものがあると知った日  
生きているのが嬉しかった

こ

の詩は私が教育実習で高校生に紹介した詩です。「詩を教えるのは難しいよ」と先生に言われながらも私は教材に「詩」を選びました。詩は不思議な言葉の集団です。相性もあります。誰かが「この詩はいいよ」と勧められても、さっぱりわからないこともあります。反対に「説明出来ないけれどいい」と思える詩も

あります。そんな時はスパーで掘り出し物を見つけた気分です。だからとてもとっつきにくい詩を読んで「詩は嫌い」と高校生に思っほしくなかったのです。時に詩は大切なことを気付かせてくれたり、心の支えになってくれることもあるのですから。高校生に馴染んでもらえる詩を選ぶために私はたくさん詩を読みました。「いのち」という詩は「何かいい詩ないかな」と友

## 不思議な言葉 の集団

達に尋ねた時に教えてくれた本、星野富弘さんの『鈴の鳴る道』に載っていた一つです。星野さんは先生をされていた方ですが、事故で体が不自由となってしまいました。『鈴の鳴る道』は星野さんが口に筆をくわえ描いた絵と詩で構成されています。私は五体満足でありながら、のほほんと生活しているの、はっとさせられる詩もあります。心が温かくなる詩もあります。実習中

に「好きな詩を選んでくる」という宿題を出した時に星野さんの詩を選んで来た生徒は多かったです。ある生徒は「僕は本とい

えばスポーツ関係の本しか読まないが、母が買って来た星野さんの本を読んだ時は涙が出る程感動した」と星野さんの詩の中でも一番好きな詩を、と選んでくれていました。「詩はどうも……」という方、試しに読まれてみてはいかがでしょう。

(文学部4年・もとやきょうこ)

『遠き落日』渡辺淳一著(角川書店)

白山 発注中

朝霞 発注中

『鈴の鳴る道』星野富弘著(偕成社)

白山 発注中

朝霞 9-11.56:HT

『私は女性にしか期待しない』

松田道雄著(岩波書店)

白山 367:MM-2:2

朝霞 Z系109(岩波新書)

『ウルフガイシリーズ』

平井和正著(角川書店他)

①狼の紋章②狼の怨歌③狼のレクイエム

(第一部)④狼のレクイエム(第二部)

白山・工学部 発注中

この物語の女主人公は、初瀬観音に参詣した帰途、雨に逢い雨やどりをしている、男主人公に見染められた。雨やどりが二人の出会いの切っ掛けであるところから「雨やどり」という書名は付けられたと思われる。

そのあら筋は次のとおりである。

按察大納言に比類なく美しい姫君がいた。二歳の時母に死別し、継母に疎まれて乳母のもとでわびしく暮らしていた。ある日、鞍馬明神に参籠したが、夢の御告げによって、さらに初瀬観音に参詣した。初瀬参詣からの帰途、京の五条辺りで雨に逢い、かたわらの家の門で雨やどりをしたところ、この家は、時の大將の子中納言の乳母の家だった。ちょうど来合わせた中納言に

姫君は見染められ、家の中に招かれて、ついに契りを結んだ。

翌朝、中納言は乳母に姫君を帰さないように置いて参内したが、乳母は姫君主従を帰らせてしまった。名乗らずに別れ別れになってしまったので、二人は思いに沈み嘆く。中納言は父母の勤める宰相の君

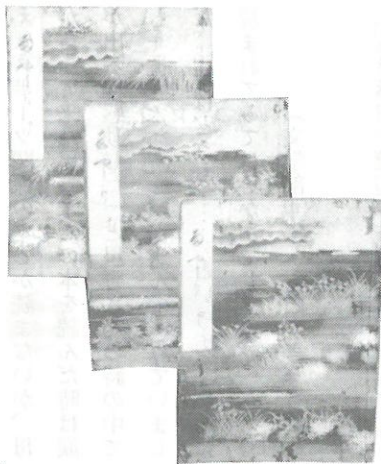
貴重書を訪ねて  
『雨やどり』  
橘 り つ

の娘との結婚も聞き入れなかった。姫君の方は懐妊し、乳母と共に心を痛めるが、やがて美しい男君を生んだ。乳母には女御の御乳母をしている姉がいた。女御も同じ頃ご出産なさったが、生まれた子は人の形でない鬼子だったので、乳母らの計らいで、姫君の男君をもらいうけて、女御の御子とした。間もなく御子は東宮に定まり、姫君は東宮の介錯にと召され、参内して御匣殿となり時めいた。一方、中納言はその後も姫君のことを忘れる間もなかったが、偶然に御匣殿が自分の恋しく思う雨やどりの姫君であることを知った。女御のお許しを得て、中納言と御匣殿は結婚し、若君や姫君を生んだ。東宮は十三歳で元服、帝位につき、中納言も大納言となる。やがて帝はご自分の出生の秘密をお知りになり、実の父大納言を摂政に任じた。こうして、その一族は末永くめでたく栄えた。それはみな神仏のご利生である。

以上のような内容であるが、本書には、神仏の利生譚、継子いじめ譚、公家・恋愛譚、嬰兒取り替え譚などの要素が見られる。中でも、嬰兒の取り替えは、市古貞次氏が『中世小説の研究』で指摘されるように、おそらく『源氏物語』の影響があるであろう。源氏物語では「源氏が藤壺宮に密通し

て生れた子が桐壺帝の皇子として育てられ、後に即位して冷泉院となるのであるが、これはそれをもっと極端にしたもの」であろう。

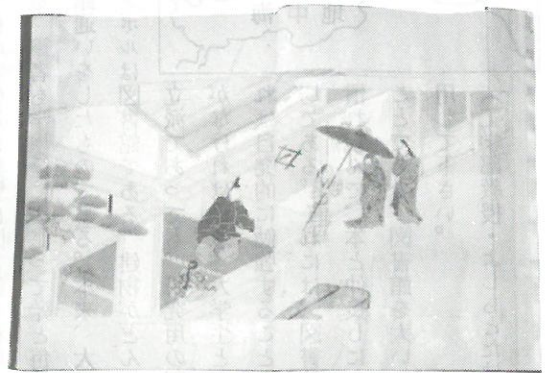
ところで、本学図書館所蔵の『雨やどり』は、奈良絵本三冊で、ドナルドF・ハイド氏旧蔵。寛文延宝頃の写し。袋綴、縦三〇・五、横二二・五センチの大形絵本である。表紙は紺地に金泥で草や竹を描き、雲型に金箔を散らした紙表紙で原装。左上に「雨やどり 上(中・下)」と墨書した、縦十



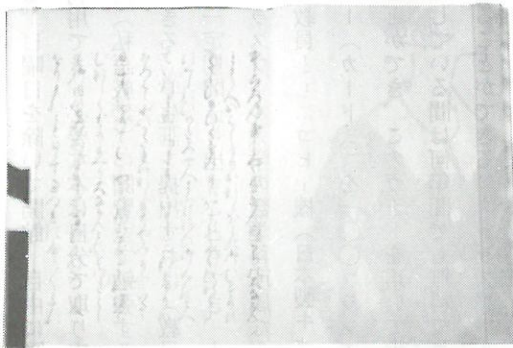
その一

六・二、横三・五センチの原題簽（金色で雲型模様）が貼ってある。見返しにも、金泥で草花や薄が描かれている。本文は一面十行書き、紙数は、上巻が二十六丁、中巻が二十八丁、下巻が二十一丁。和歌は二行書き、上に十首、中に六首、下に四首、合計二十首。挿絵は、上に七図（うち見開き一図）、中に七図（うち見開き一図）、下に六図（うち見開き一図）あり、その奈良絵は、大形の中に丁寧な品良く描かれ、美しい。奥書は無い。「拜土蔵書」の蔵書印がある。二重の箱に入れられており、内箱は赤茶色の時代の漆箱、蓋中央に黒字で「雨やどり三冊」と打ち付け書き、外箱は黒塗の拵漆箱。三冊ともに保存状況はとても良い。

諸本は、写本と奈良絵本が十本ほど伝えられているが、活字にされているのは二本で『新編御伽草子上』（写本）と『室町時代物語大成 第一』（奈良絵本）所収。本書と比べると、いずれもあら筋はほぼ同じであるが、詞章・和歌の数・挿絵の数と位置および巻の分け方が異なる。ところが、静嘉堂文庫蔵奈良絵本三冊は、本書と同様の大形絵本で、本文・和歌・挿絵の数など本書と大体同じである。（中巻末の分け方や文字の大きさは異なっているが）。



その二



その三

この作品には「雨やどり」の他に「按察大納言物語」「今宵の少将物語」「中くぼ物語」などの書名があるが、「按察大納言物語」は女主人公の父按察大納言から取ったもので適当とは言えないし、「中くぼ物語」は『落窪物語』に似せて付けた書名かと思われるが、継子物の要素の記述の割合が僅かなので、やはり適当とは言えない。「今宵の少将物語」はその由来が不明。しかし「雨やどり」は、それが二人の出会いの切っ掛けであり、さらに上中下巻を通じて「雨やどり」という表現が十回以上出てくることから、「雨やどり」なる書名が最もふさわしいと思う。

なお、ここに掲げた図版・その一は、紺紙金泥の原装の表紙と原題簽。三冊の保存の良さが知られる。その二・奈良絵は、第二番目の絵で、初瀬参詣の帰途、雨に逢い雨やどりをしている姫君を、時の大将の子中納言が乳母の家において見染めたところ。その三は、本書の冒頭部分。伝本によって書き出しにも相違があるので、参考までに掲げてみた。(K913.49:A-6)

(文学部教授・たちばなりつ)



外国の図書館シリーズ  
— その2 —

ストラスブール大学

吉本 武史

ストラスブール大学には、  
専門学科ごとに図書館が

ある。ここでは、数年前に筆者がお世話になつた数学科の図書館についてお話しする。ストラスブール大学は一六二一年に創立され三十七年の歴史をもち、パリ大学に比べ図書館であると自負するだけあって蔵書は大変なものである。数学史の専門家なら喉から手が出る程欲しくなるような一六Cあたりからの文献や、学部学生用の図書、院生・研究者用の図書など（世界各国の数学専門雑誌を含めて）かなりのものが揃っている。図書館職員はとても優しく親切である。たとえば、資料がない場合は、全国図書館の間に協定があつて、誰でも職員に申し出れば、職員がその資料のある図書館を捜し出して一週間以内に資料を取り寄せてく



立派であつても、研究用の図書がなければ最悪。大学生ともなれば自発的に勉強することが大切である。それには、図書館に慣れ親んで、本と仲良しになることである。図書館を大いに利用して下さい。  
(工学部教授・よしもとたけし)

れる。日曜日を除いて開館。自由に図書館が利用でき、必要な本は自分で取り出して館内（私語厳禁）の閲覧室で勉強することもできる。学生証を提出すれば（教員は不要）一定期間借り出すこともでき、また、ストラスブール大学の数学科所属なら、学生・教員ともにコピー機（日本製キヤノンのキー（カード式）を一〇〇フランで借りることができ、このカードを用いて大学に所属している間は何年間でも無料でコピーをとることができる。ストラスブール大学数学科の学生達は頻繁に図書館を利用してゐる。筆者も学生達にまじつて殆ど毎日図書館通いをしたものである。本来、大学のシンボルは図書館である。建物がどんなに

図書館アラカルト

大学祭期間中の開館について

★白山

開館日 11月19日(木)

閉館日 11月20日(金)～11月24日(火)

★朝霞

閉館日 11月19日(木)～11月24日(火)

★工学部

開館日 11月5日(木)～11月6日(金)

9時～17時

11月7日(土)

9時～13時

11月9日(月)

9時～17時

※変更の場合は各館で掲示します。

ΚΟΣΜΟΣ (No.99)

1992年10月20日発行

発行人：松本恒之

発行所：東洋大学図書館

〒112 文京区白山5-28-20

TEL 03-3945-7314

© 東洋大学図書館 1992